第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１０月６日提出）

１．題　目：平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「新人教員のための授業設計入門」

２．日　時：　平成 26 年 8 月 26 日（火）　10：00　～　12：00

３．場　所：事務局第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施：評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（おもに新人教員が対象（非常勤含む））

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
このFDの目的は、初めて授業を担当する教員、また、授業方法を再考したい教員を対象にして授業創造の基礎的な事項について概観することである。
内容は、授業の基本的な設計、アクティブラーニングなど授業方法の様々、学習評価や授業評価の方法、授業記録等について、各局面での留意点を整理した。内容を概説した後、到達目標およびシラバスの書き方についてのワークが導入され、授業創造を行ううえでの実践力が養われた。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　大学教育イノベーションセンター　岡田 佳子　准教授

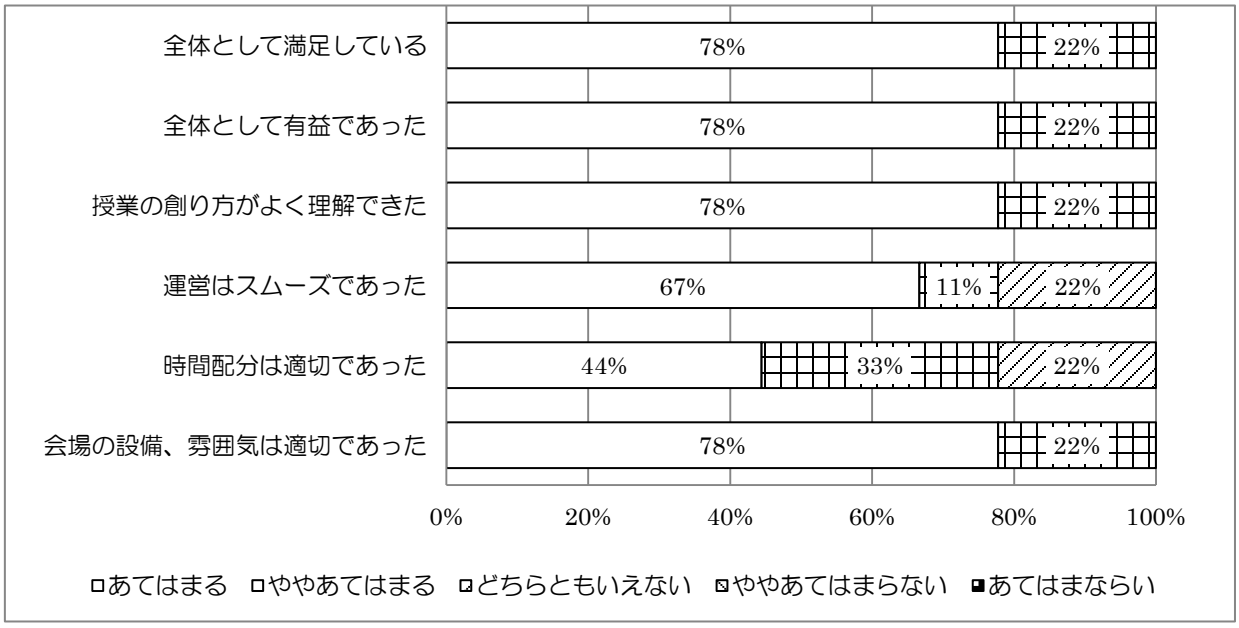
【内容】
①　授業の設計（全学共有学士像、カリキュラム内の位置づけ、シラバスの書き方）
②　授業の方法（教授法、教材、予復習課題）

③　学習の評価（教育評価の基礎、成績評価、学習者アンケート）
④　授業の評価（授業日誌、公開授業、学生による授業評価）
⑤　授業の記録（授業実施記録、ティーチング・ポートフォリオ、成績資料の保存）

９．参加者：　１０名（受講証発行対象者：１０名）
（内訳）

所　　属	人数
教育学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科　ハイブリッド医療人養成センター	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
大学教育イノベーションセンター	3
地域教育連携・支援センター	1
計	10

１０．実施したＦＤの成果等
（１）　参加者からの評価



（回答者：９名）

●今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

- ワークショップをする場合、もう少し時間をとっておいた方がよい。（２時間では足らない？）
- 教養教育に関する説明が長かったのでは？（参加者の多くはモジュール科目担当ではない）
- まずは学部、大学全体の教育方針やカリキュラムを理解しなければ自分の担当する授業で何を重点的に伝えれば良いかわからないと感じました。
- 今まで考えていなかった部分の重要性に気付かされたのでとても有意義な時間であった。
- 内容がとてもよかったので、１回ではなくシリーズ（２～３回に分けて）で開講していただけたらありがたいです。
- これまでシラバスの作成方法を学習せずに毎年シラバスを作成していましたが、シラバスの満足度が学生評価の中で一番低い理由が理解出来、とてもためになりました。
- Inspiring
- ディプロマポリシーなど長大の考え方を理解していなかったのでとても勉強になった。
- 実際にワークシートで自分の担当講義について考えることができたのですぐに使えそう。
- シラバスの書き方を習ったことのないまま実務をしてしまっていたので改めてきちんと教えていただいて有難い。(到達目的 etc)
- とてもわかりやすく、参考になりました。

●今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 何とか参加者を増やす方策を考えなければと思う。
- 今日他のテーマでも参加したいものがあったが日程的に参加できなかった。ネット上での公開、ビデオ貸し出しなどがあると嬉しい。
- 特にありません。ありがとうございました。

（２） 総　括

全学共有学士像、カリキュラム、シラバス等の概説がなされるとともに、「到達目標の書き方」および「シラバス作成」のワークシートが配布され、それぞれのシートを活用したワークおよびグループ討論がなされた。講義を聴くだけでなく、アクティブラーニングによって参加者の理解が深まったものと思われる。参加者からの評価において、満足、有益、

よく理解できたとの回答が 100%であり、有意義な講座であったと言える。参加者は必ずしも新任教員ではなかったが、参考にすべき貴重な内容であったとのコメントが多く見られた。また、時間がやや不足、あるいは、2～3 回に分けて開講、等の意見も挙げられている。授業設計の方法は大学において授業を担当する教職員にとって不可欠な知識と考えられることから、受講の機会を増すことならびに新任教員に限らず多数の教員の参加を促すことが望まれる。

（文責：植木　弘信）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１０月６日提出）

１．題　目：平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「伝わりやすい話し方のコツ」

２．日　時：　平成 26 年 8 月 26 日（火）　13：00　～　15：00

３．場　所：　事務局第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：　教務委員会
企画・実施：　評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：　全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　○　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
授業や研究発表、会議等の場面では、「話す内容」「話し方」のみならず、「誰が話すか」が重要である。そのため、本講座では、教職員としての信頼される話し方、伝わる声、伝わる話し方をするためのコツを身につけることを目的とした。今回は、長年 NHK のアナウンサーとして活躍し、話し方についての著書を持つ矢野氏を講師に迎えた。これにより、話し方によって人に与える印象の違いを踏まえたうえで参加者個々人の個性を引き出す実践的なトレーニングを行うことができた。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】地域教育連携･支援センター　　矢野 香　助教

【内容】
① 印象設定
相手に与えたい印象により話し方のスキルは変わります。まず自分の初期設定を行

います。

② 言語トレーニング

話の組みたて、言葉遣い、など論理的にわかりやすく伝えるための方法について学ぶ。

③ 非言語トレーニング

声の出し方、表情、ジェスチャーなど非言語面について、聞き手を巻き込み退屈させない表現方法について学ぶ。

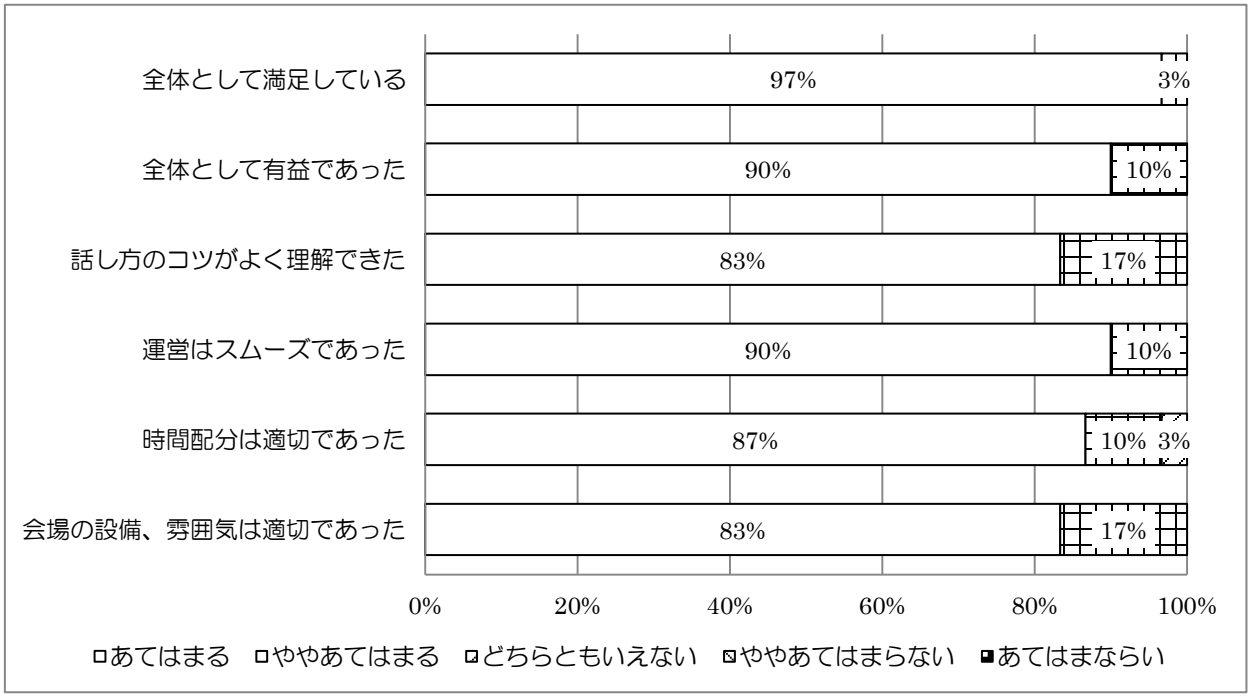
９．参加者：３０名（受講証発行対象者：２９名（途中参加者１名除く））

（内訳）

所　　属	人数
教育学部	4
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科ハイブリッド医療人養成センター	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	2
国際健康開発研究科	1
病院　メディカル・ワークライフバランスセンター	4
産学官連携戦略本部	1
国際教育リエゾン機構	1
大学教育イノベーションセンター	3
男女共同参画推進センター	1
学生支援部	4
施設部	3
学術情報部	1
計	30

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：３０名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ もっと聴きたいと思う内容でした。ありがとうございました。
・ とても役に立った。
・ 話し方のテクニックを学べてよかった。
・ 日頃、気づかなかった点をご教授戴き、今後役に立つと思います。
・ 最初にお茶をすすめていただき、雰囲気がなごみました。具体的な方法を教えていただきすぐに使えることがたくさんあり、受講してよかったです。
・ 初めて聞いたり知ったりしたことばかりで役に立った。
・ 日頃意識しないテーマだったので、プロの話を聞くことができてとても良かった。判りやすかった。
・ 人に対してうまく説明できない時があるので、P・R・E～を今後頭に入れて話すようにしたい。
・ 伝える時に何が大切かわかってよかったです。自己紹介の仕方を教えていただけると思っていなかったのでよかったです。
・ 期待以上の内容で楽しく学べました。
・ 内容についてわかりやすく、参加型の授業だったので楽しめました。
・ 今まで話し方の研修を受けたことはありませんが、とても有意義な研修でした。また、このような研修があれば是非受けてみたいと思います。
・ 具体的な表現方法よりも、まずは何を表現すべきかを考える必要があると感じまし

た。

- 非常に有意義な企画をありがとうございました。
- 結局キャラクター（or なりたいスタイル）を意識するのか、肩書を意識するのか、何をベースにするか分からなかった。
- 相手（特に学生）の話し方からうかがえる心とか状況などに関するテーマから、この続き版を開催していただけると良いのではないかと思いました。
- とても素晴らしい内容で満足しています。私自身も学生相手に実践できたらと思っています。
- 気付きがたくさんあった。
- また、このような機会をたのしみにしています。
- 話し方、表情、ジェスチャーなどで伝わり方がこれほど違うものなのか驚きました。人前で話すのがとても苦手です。短い時間で自分の気持ちを表すのも苦手です。しかし、これからは先生から教えていただいた PREPLP を思い出しながら人と関わっていきたいと思います。
- 話し方で気になっていた点があり、本日のワークショップを想い出しながら実行していきたいと思った。
- Truly inspiring！

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

- 机の向きが中心向きだったら先生の方を見やすかったかなと思う。
- 坂本でやってほしい。

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- ビジネスレター、公式の依頼文の書き方。
- 統計に関するもの。
- 授業のデザインをするに当たり、学生のバックグラウンド、特に高校理科などの教育情報を知りたい。どこまで知っていて、どこから始めたらいいのか。
- 同じテーマでフォローマップ、リフレッシュコースがあれば実効性が高まると思われる。
- 特にありません。ありがとうございました。

（２） 総　括

本講義では、教職員として「信頼される話し方」、「伝わる声」、「伝わる話し方」をするためのコツについてトレーニングを行いながら、唯一無二の存在として学生や周囲の人々への影響力をあげていく話し方について考えることを目的としている。

受講生 30 名は少人数グループに分かれて、① 印象設定 ② 言語トレーニング ③ 非言語トレーニング の３テーマについてグループワークに取り組んだ。全体的に和やかな雰囲気の中での参加型授業であったので、受講生は現状の自分の話し方・伝え方のクセに気づいて修正方法を知ることができる等の到達目標を概ね達成することができたのではないかと思う。参加者からの評価も満足度、有益度及び理解度等の全項目について「あてはまる」が 83～97％であり、多くの好評を得て、十分満足のいくものであったと言える。参加者からの感想に同じテーマでのフォローアップ、リフレッシュコースがあれば実効性が高まるのではとの意見もあったので、第二弾の企画に期待したい。

（文責：長富　潔・神谷　保彦）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１０月６日提出）

１．題　目：平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「体験する PC 必携化～今教室の中で何ができる!?～」

２．日　時： 平成 26 年 8 月 28 日（木） 10:00 ～ 12:00

３．場　所： 教養教育棟 A-12 教室

４．主　催： 教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
[　○　] (1)　教員の教育活動に関するもの
[　　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの
[　　] (3)　教育の組織的改善に関するもの
[　　] (4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　] (5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
本学では、平成 26 年度入学生より PC 必携化が開始された。そこで、本プログラムでは、前期が終了した時点での学生の ICT スキルの状況、必携 PC を各教室で利用するための情報環境について解説を行った。本プログラムの参加者にはノート PC を持参してもらい、講義室での無線 LAN 接続、LACS 等のシステムの利用を実際に体験してもらった。また、後期以降の科目の授業設計において必携 PC 利活用のヒントとなるよう、前期での授業での使用事例を紹介した。

８．プログラム構成［題目・担当講師］

【講師】ICT 基盤センター　柳生 大輔　助教
ICT 基盤センター　上繁 義史　准教授

【内容】

a.

① イントロダクション（LACS 上の資料へのアクセス－無線 LAN 接続，LACS へのログイン）

② 「情報基礎」の事例紹介（必携 PC を用いた講義や指導内容，必携 PC の現状など）

③ 受講者の持参 PC での体験学習（LACS を利用しての一言コメント提出など）

b.

① 必携 PC 活用の経験談（情報基礎以外の科目での事例や意見交換など）

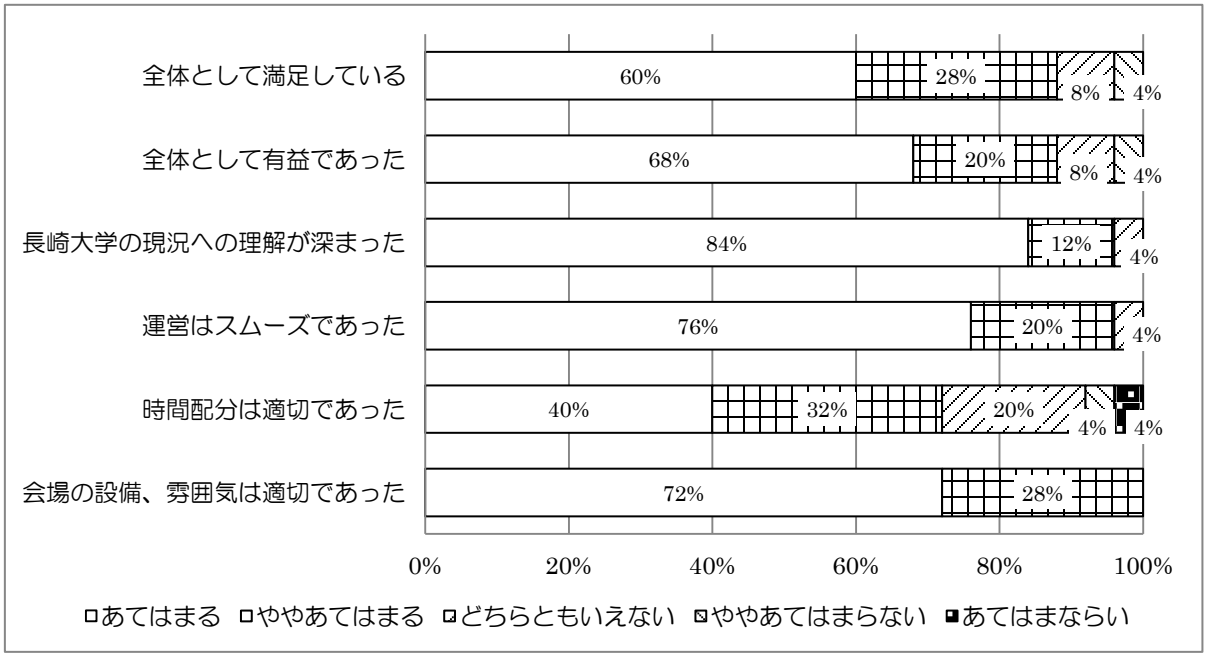
９．参加者：２８名（受講証発行対象者：２８名）

（内訳）

所　　属	人数
多文化社会学部	2
教育学部	1
経済学部	1
医学部医学科　先端医育支援センター	2
医歯薬学総合研究科(医系)	1
医歯薬学総合研究科(保系)	2
医歯薬学総合研究科(歯系)	2
医歯薬学総合研究科ハイブリッド医療人養成センター	1
工学研究科	3
水産･環境科学総合研究科(環境)	2
水産･環境科学総合研究科(水産)	1
原爆後障害医療研究所	1
病院	1
産学官連携戦略本部	1
先導生命科学研究支援センター	1
ICT 基盤センター	3
大学教育イノベーションセンター	1
学術情報部	2
計	28

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：２６名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 先生方の利用事例を紹介してもらえる機会を増やしてもらえたら助かります。

・ ほとんどが如何に pc を使うかというより、教員に対するコンピュータリテラシーや lacs の紹介の講義にかなりの時間を費やしていた。これは別にやって欲しい。もっと授業で使うヒントを多く入れて欲しかった。

・ 長崎大学の学生の PC 利用状況がざっくり理解できよかった。LACS を、前期から小テスト、定期試験、連絡事項等に使用しているがとても使いやすかった。今日、私が前期に使っていないファンクションを紹介いただいたので、今後もっと LACS を活用して授業を進めていきたい。

・ わかりやすい説明で参考になりました。1 年生の前期でかなりの PC に関する情報を学習していることが理解できました。

・ もう少し、実際の講義での LACS 使用の具体例が提示されると期待していた。

・ 有益でした。ありがとうございました。資料の配布をデジタルにすると、著作権の問題が出るかもしれないと危惧しています。インターネットから勝手に引用して使うのは問題にならないでしょうか？注意点などをまとめてください。

・ とても参考になりました。是非、LACS を使って講義をしようと考えています。

・ センターの教職員の皆様のご尽力に頭が下がります。LACS の使用法をもう少し詳しくしていただけるとありがたいです。（それは，別の FD，SD で企画されているとは

存じますが... ）

- もっとさまざまな事例をみたかった。
- とても有意義でした。
- 資料にPC上で書き込みをしながら講義を聞きたかった。
- lacs を実際に使った部分が有益でした。初めてのlacs講習会も、ぜひ体験型にしてください。
- もう少し実際の利用例を紹介してほしかった。
- LACSでなければできないものが明確ではないようでした。現段階では、便利になるが、使い方を十分に広げれば（コンテンツを拡大すれば）飛躍的に効率が上がるもののようである。
- 説明の途中で質問したいことがあった。講義でトラブルがあった時の対応をしてくれるサービスを充実してほしい。(急な解決が必要な場合がある。)
- 必携PCの購入について、自治体の補助等を得ることはできないのでしょうか。私の姪が佐賀県の高校に通っているのですが、自治体の補助により、十万円を超えるPCが数万円程度で購入できる・学生はそのPCに管理者権限を持たない・使用できるソフトウェアが限定されている・教官が使用状況を確認するためのエージェントがインストールされている(授業中に遊んでないか確認できる)・オフィスやコンパイラ等はインストール済みといった仕様でした。上記は長崎大学の学生にそのまま適用できるものではないでしょうが、学生や教官の負担を軽減する取り組みは、自治体や業者の協力で幾つか実現できないか……と思います。
- Excellent outline of the “big picture”.
- Wi-Fiの詳細な使い方がわかって大変参考になりました。文教地区以外のサポート体制について、今後は検討していただきたいと思います。
- 学生のPCに対する理解度を知ることができて良かったです。
- 教養ゼミナールを前期に担当しました。先生方の教養ゼミナールの活用方法をお聞きして大変参考になりました。学生の情報の講義の学習状況がよくわかりましたので活用しなきゃなぁと思いましたが、トラブル（LACSなど）にうまく対応できる自信がありません。
- 現１年生の状況を知りたかったので非常に有益でした。

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

- お茶などを用意されておられましたので、途中での休憩があるとよかった。
- FD.SDサマーワークショップに関してではありませんが､LACSの講習会に何度か(３回）出席しましが、説明がかなり早く（PCをかなり使いこなしている人を前提に行

われている印象を受けましたので）かなり分かり辛い（印象を）感じがして残念に思いました。もう少し、あまりPCを分からない人の気持ちもくんで講習会をしていただけたらと思います。

- LACSの活用法の例をもっと知る機会があると有用と考えます。
- 文教地区以外の先生にも役立つように配慮して欲しい。他の地区での利用例など。
- 教職員を増員する必要があるのではないでしょうか。
- 少し寒かったです。
- 授業時間内でアンケートをとったり、レスポンスシートの作成のために必携PCを活用するというアイデアはとくに有益である。
- 当日の流れ(数行)を、事前に連絡いただけると、出向く前に意欲がさらに湧くかと思います。
- 会場の案内図をどこかにあげてほしかった。探しました。
- 実際の使用方法について知りたいです。たとえば、今回用いた質問集の作り方等。

● 今後、FD・SDのテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- LACSの応用活用例のワークショップ等。
- MacでもOKなはず。MacOSでも使える利用法（共存)。タブレットも含めて。
- 実習形式ならば、実感しやすくわかりやすいと感じます。
- グループワークでの討論を行いながら必携PCを活用する事例を知りたい。
  例：Youtubeなどで動画を確認しながらグループでディスカッションしてもらう。各自メモを取りながら討論する。メモの内容と討論の内容を総合して各個人がレポートを提出する。
- 初めてのlacs講習会では、学生の立場になって、本当に８つぐらいの授業が表示される（１つ以外はダミーでok）ように設定した状態で、受講できると分かりやすいと思います。
- 使用法、応用方法については、どこかにアップされているのでしょうが、よく知らないので周知いただきたい。
- FDの記録を動画等で配信して学内で広報してほしいと思いました。
- とくにありません。ありがとうございました。

（２） 総　括

学内 LAN への接続と LACS の基本的な使用方法の説明、LACS を用いて授業を双方向化する方法についての簡単な紹介に続き、1 年生が受講する「情報基礎」の講義内容についての紹介があり、最後に「教養ゼミナール」での PC の活用について 3 名の先生から話題提供があった。参加者からは学生へのメールでの確実な連絡方法や、LACS 上で資料へのコメント付与方法、携帯やタブレットに対する PC の優位性についてなど、具体的な利用方法についての質問が多くあった。全般に授業で PC を利用する上で必要な知識について幅広い内容を含んでおり、アンケートでも有意義であったとの肯定的な意見が多かった。ただし、内容が多岐に渡りすぎていたきらいがあり、時間が十分でなかったため、時間配分についての不満が多くあった。自由意見からも、参加者の PC や LACS への理解にかなりの差異があったようで、これに対応するために講師の先生方はご苦労されたと思うが、タイトルに「体験する PC 必携化」とある以上、基礎的な部分は別の講習会で対応していただき、ここでは実際に授業でどのように PC が利用できるのかということに焦点を絞って事例を多く紹介するようなものであれば、より有用であったのではないかと思われる。

（文責　天野雅男）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１０月６日提出）

１．題　目：平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「アクティブラーニング事例報告ーモジュールⅡ前期科目よりー」

２．日　時：平成 26 年 9 月 4 日（木）15:00～17:30

３．場　所：教育学部 21 番教室（教育学部本館 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施：評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
[　○　] (1)　教員の教育活動に関するもの
[　○　] (2)　カリキュラムの改善に関するもの
[　　] (3)　教育の組織的改善に関するもの
[　　] (4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　] (5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
全学モジュール科目では、アクティブラーニングを積極的に導入する試みが進められている。今回の事例報告では、理系・文系合わせて７名の先生方から今年度前期の授業経験を紹介してもらった。苦労した点・失敗した点も含めて、互いにざっくばらんに実践交流を行うことで、後期授業に向けて工夫を考え合う機会にすることができた。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【内容】
①　モジュールⅡ前期科目担当者７名からの事例報告
②　事例報告を受けての自由な意見交換

【科目名と報告者】

「ＩＣＴとことば」	教育学部　福田 正弘　教授
「廃棄物と土壌・地下水汚染」	水産・環境科学総合研究科　朝倉 宏　准教授
「異文化接触とコミュニケーション」	国際教育リエゾン機構　永井 智香子　准教授
「被ばく者と医療」	核兵器廃絶研究センター　三根 眞理子　教授

「対人世界の心理学」　　大学教育イノベーションセンター
川越 明日香　助教

「医療現場の安全安心」　　医歯薬学総合研究科　松坂 誠應　教授

「資源エネルギー問題への取組み」　　教育学部　藤本 登　教授

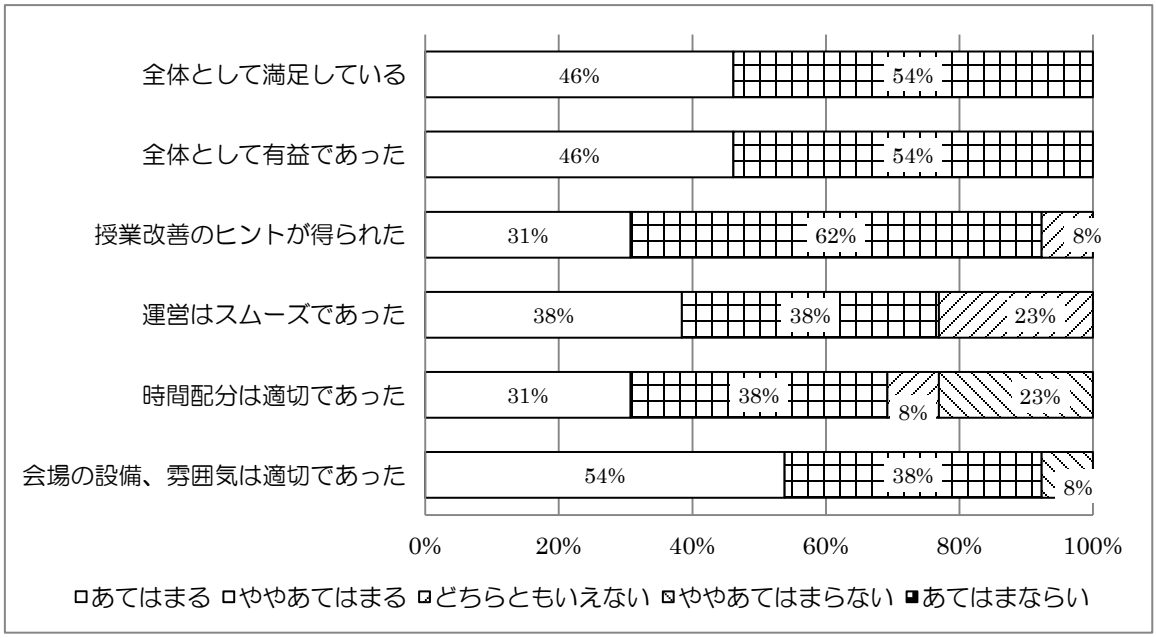
９．参加者：９名（受講証発行対象者：９名）

（内訳）

所　　属	人数
多文化社会学部	1
教育学部	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	3
大学教育イノベーションセンター	1
国際教育リエゾン機構	1
計	9

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：１３名 ※報告者含む）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 内容は良いものでしたが、少々参加者の少ないのが気になりました。
・ 様々な先生の様々なアクティブラーニングが聞けて良かった。
・ アクティブラーニングのとらえ方、学生への対応の仕方、改めて難しいと考えさせられた。
・ 様々な先生方の意見が聞けてよかったです。学生のアンケート等にもとづいたお話の部分がもっとあってもよいと思います。
・ 議論、討論の時間を多くお願いします。
・ 各学部からの出席者が増えることを期待しています。
・ 来年からモジュールを担当する予定で、大変有益だった。ここで得た発表された先生方の工夫を自分の授業にとり入れたい。
・ グループワークでドロップアウトする学生の対応に苦慮します。こちらのやらせたいことと、学生が興味をもつことは両立しない。
・ 私自身は、教材開発に関心があります。授業で用いる資料等をどう教材化するかに悩んできました。むしろアクティブラーニング（多様な学びの採用）は、教材がしっかり準備できれば、様々な対応が可能だと考えます。

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ 今回、少し時間が長かったと思います。
・ 依頼を受けたときには、２０分程度の報告と聞いていたが、会の冒頭で１２分と聞き戸惑った。変更になったのであれば、事前に連絡があったら良かったと思う。
・ 発表方法について質問したが、当日まで回答がなかったので用意しなかったが、他の人はパワポを用意していた。何分発表という説明も結局なかったのでは？モジュールでがんばったら呼ばれて発表の用意というのも負担。

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

・ 専門教育での事例報告をお願いします。
・ 他の国内、国外の大学で行われている授業の工夫について、是非調べて頂いて、長大に活用できる点を模索して頂きたい。（これを知りたい）

（２） 総　括

全学モジュールⅡ科目におけるアクティブラーニングの導入について、各部局からの多様な事例についての報告があった。従来の報告会は自然科学系と社会科学系の２つの分科会に分かれて行われてきたが、今回は両分科会の合同報告会となったことにより、従来より多様な事例について議論できる貴重な機会となった。アクティブラーニングの

概念から始まり、具体例（テーマの設定・LACS・班分け法・宿題・ゲームなど）や失敗談などについて様々な報告が行われ、活発な議論が行われた。

後半に行われた総合討論では、まず「アクティブラーニングにおいて困ったこと」というテーマを提起し、グループ分けの方法に関する問題点に焦点を絞って議論が行われた。次の「アクティブラーニングやモジュール科目を今後どのように進めていくべきか」というテーマでは、学生の意識改革について大学全体で取り組みを行う必要性や、モジュールに対する理解を促進するためのハンドブックの必要性について議論が行われた。

アンケート結果によると、「全体として満足している」および「全体として有益であった」の設問に対し、「あてはまる」と「ややあてはまる」をあわせると、すべての受講者が満足し、有益であったと感じていたことが確認された。さらに、「授業改善のヒントが得られた」の設問については「あてはまる」と「ややあてはまる」が 90%以上を占め、本 FD の報告内容が受講者にとって意義深いものであったことが窺える。また、「会場の設備、雰囲気は適切であった」の設問では「あてはまる」と「ややあてはまる」が 90%以上を占めて肯定的評価であるが、「運営はスムーズであった」および「時間配分は適切であった」の設問では「どちらともいえない」と「ややあてはまらない」をあわせて 20-30%程度の肯定的ではない意見が見られた。今回の FD では、運営面に改善の余地があるものの、報告や議論の内容の有益性については受講者の満足度は十分であったものと推測される。自由記述欄には今後の授業改善に対して積極的な意見が多く見られた。特に、他の大学で行われている授業の工夫についての事例紹介をする FD の必要性を感じた。

本 FD によって、アクティブラーニングは教員ごとに様々な解釈の仕方があり、テーマや受講生などの多様性によって方法論にも多様性が存在することが理解できた。また、このような事例報告会に参加することにより、アクティブラーニングの独自の解釈や方法論をさらに進化させていくことが必要であろうと思われる。

（文責：真鍋 義孝）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１０月６日提出）

１．題　目：平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「レポート＆課題を効率的に評価するには？～ルーブリック入門～」

２．日　時：平成 26 年 9 月 8 日（月） 16:00～17:30

３．場　所：教育学部 21 番教室（教育学部本館 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施：評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
本 FD は、レポートや課題など、質的な評価が求められる場合に用いられる評価ツールであるルーブリックについての基礎的な内容を学習することを目的としている。
今回は、ルーブリックについての概要と活用法について説明した後、簡単なルーブリックを作成するワークを実施した。ルーブリックは作成に手間がかかるが、一度作れば学生へのコメント返却などコミュニケーションに割く時間を有効に短縮することができる。モジュール科目などでアクティブラーニングが推進されている長崎大学の教育改善にとって、ルーブリックの導入および活用は極めて重要な課題であり、今後もますます同様の FD を展開していく必要がある。

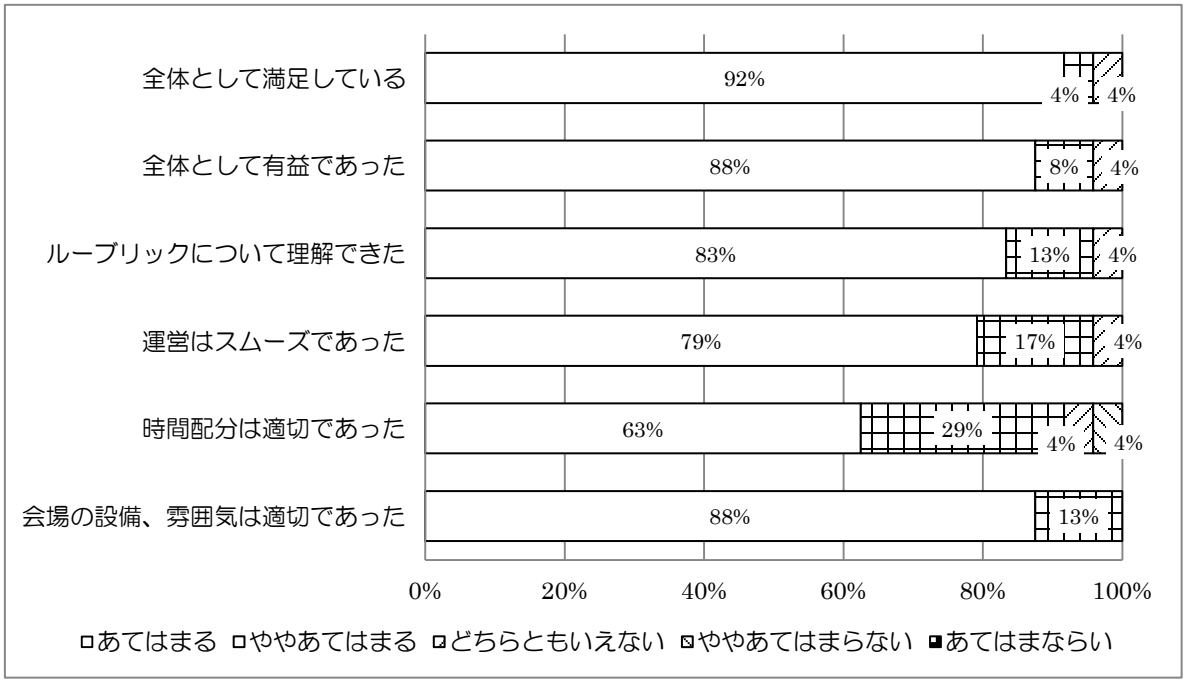
８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　大学教育イノベーションセンター　岡田 佳子　准教授
大学教育イノベーションセンター　當山 明華　助教

【内容】
① ルーブリックとは何か？～採点基準の明示化～
② ルーブリックの活用法
③ ルーブリックの作成法

９．参加者：26 名（受講証発行対象者：26 名）
（内訳）

所　　属	人数
多文化社会学部	2
教育学部	4
経済学部	3
医学部医学科　先端医育支援センター	1
医歯薬学総合研究科（保系）	2
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科（薬系）	2
医歯薬学総合研究科ハイブリッド医療人養成センター	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	3
病院	2
国際教育リエゾン機構	1
大学教育イノベーションセンター	4
計	26

１０．実施したＦＤの成果等
（１） 参加者からの評価



（回答者：２４名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 入試の採点にも応用したいと思います。
・ 分かりやすかった。プレゼンターのお二人のお話しもよかったし、川越先生の例・課題点のシェアなどもよかった。
・ 引き続きルーブリックを扱ったワークショップを開いて欲しい。
・ ルーブリックの段階作成のアドバイスが欲しい。
・ ルーブリックに関する基礎を理解するとっかかりになった。これぐらいのシンプルな基準であれば実践できそうだなと自信がついた。
・ Difficult topic, bud needs to be addressed.
・ ワークショップ形式が良いと思います。もう少し時間が欲しい。
・ 初めてルーブリックにふれ、表現の難しさを実感した。今後、いろんな例をみていきたい。
・ 丁寧でわかりやすかった。
・ なるべく多くの事例を使いながら活用方法を示して頂けると有益だと思います。学生のリスポンス（反応一般、何か改善要望が出されたのかetc）や教育効果についても学びたいと思います。
・ これまで評価をかなり感覚的にしていたことに気がついた。今日のルーブリック入門に参加して（より）具体的に評価観点を考えることによって、私自信もより明確に学生にどういった点を改善したらよいか説明できる助けになると思った。
・ 勉強になりました。とてもわかりやすかったです。
・ 医学生のレポート評価にも試してみたいと思います。
・ ルーブリックは大変有用そうです。(難しいですけど)是非使ってみたいと思います。
・ 評価観点は今までも示していましたが、評価基準を言葉ではっきり示すことにより、教師自身も何を基準にするかがよく分かると思いました。後期に早速使います！！
・ ルーブリックについて何も知らなかったので、大変参考になりました。
・ ルーブリックは１回作成しただけでは無理と思った。（２−３年続けないと落ち着かない）

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ 入門編としてすばらしいので、次回発展編もと期待します。
・ 問題ありません。
・ 他部局の先生方と意見が交換できるのは良かったです。飲み物、食べ物があるのも嬉しかったです。
・ 参加申し込みが１週間前までを３日前くらいにして欲しい。
・ ＦＤリマインドのメール（ありましたか？）があればうれしいです。Ｗｅｂ上でルーブリックを入力する仕方の簡単なマニュアルがいただければ・・・。

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

・ ２００名以上の授業におけるアクティブ・ラーニングについて。
・ ルーブリック　×　ＬＡＣＳ
・ ＬＡＣＳとの連携。
・ ＬＡＣＳの活用事例。
・ こういうものがいいです。

（２） 総　括

講師の岡田先生、當山先生の他に川越先生も参加されて参加者 26 名で飲み物とお菓子付きの肩の凝らない FD でした。参加者からの評価では、全体として満足・有益であったとの評価が 95%以上あり、多くの方が実際にルーブリック評価は初体験であったが、よく理解されていたようである。スライドや説明も系統だっており理解しやすかった。川越先生が実際に実施されて評価を使って説明され、具体的な課題も示されたことで、入門編ではあったが活用の仕方について深めることができた。

参加者の感想としては、ワークショップに時間をもう少しかけられたらよかったのではないかと思われた。90 分が短く感じられたので各グループで作成された評価表を全体でシェアできたらさらに有意義なものになったように思われた。ルーブリックを作成しなくても評価や講義の際にルーブリックの考え方を頭に入れてくことで効果的な授業ができるようであるとの感想も散見された。

今後は、文系・理系・実験系など幾つかの実例を用いて実施することも必要ではないかと感じられた。

（文責：小原 達朗）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１０月６日提出）

１．題　目：平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「新任教授へのメッセージー長崎大学の課題と展望ー」

２．日　時：平成 26 年 9 月 11 日（木）　13:00～15:30

３．場　所：教養教育棟 A-12 教室

４．主　催：教務委員会
企画・実施：評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：平成 24 年度以降に教授に昇任または採用された方
（平成 25 年度同プログラムに参加した教員を除く）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について
[　　]（1）教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）入学者選抜方法の改善に関するもの
[　○　]（5）その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
大学を取り巻く環境がますます厳しくなりつつある今日、教授職の教員は今後の長崎大学のマネジメントを支えていく貴重な役割を担っている。そのため、本 FD の目的は、新たに教授に昇任した教員や教授として着任した教員を対象として、本学の状況と今後の展望を共有し、高等教育機関としての本学の充実の方策について理解を深めることとした。本 FD では学長ならびに各担当理事に対する参加者からの質疑応答の時間も設けられ、トップマネジメントと現場の意思疎通をとる重要な機会となった。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
13:00～13:05　開会挨拶（大学教育イノベーションセンター　岡田佳子 准教授）
13:05～13:35　片峰 茂 学長（本学を取り巻く社会情勢）
13:35～13:45　質疑応答
13:45～14:05　松坂 誠應 理事（教育面の課題）
14:05～14:10　質疑応答
14:10～14:30　調 漸 理事（研究面の課題）

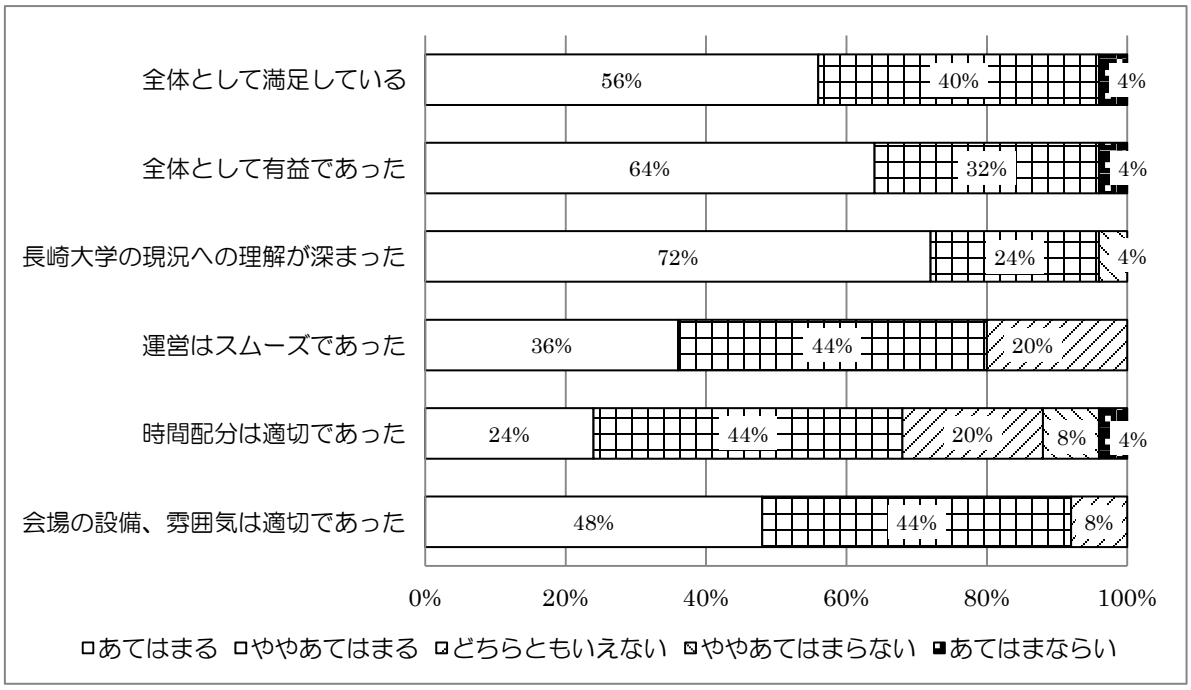
14:30～14:35　　質疑応答
14:35～14:55　　山﨑 裕史 理事（財務面の課題）
14:55～15:00　　質疑応答
15:00～15:20　　福永 博俊 理事（人事・認証評価面の課題）
15:20～15:25　　質疑応答
15:25～15:30　　閉会挨拶（大学教育イノベーションセンター　岡田佳子 准教授）

９．参加者：　２９名（受講証発行対象者：２９名）
（内訳）

所　　属	人数
多文化社会学部	1
教育学部	3
経済学部	1
医歯薬学総合研究科（医系）	2
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科　地域包括ケア教育センター	1
工学研究科	4
水産・環境科学総合研究科（環境）	5
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
大学教育イノベーションセンター	1
核兵器廃絶研究センター	1
地域教育連携・支援センター	1
研究国際部	1
財務部	1
学生支援部	1
学術情報部	1
病院	3
計	29

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：２５名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 二部構成にするなどして時間をつくり、深い部分（内容）など詳しい説明があってもよいのではないでしょうか。
・ ディスカッションがあればもう少し理解が深まると思う。
・ 教授に限らなくても良いと感じました。
・ 時間が少なくて、講師の意図が十分に伝えられなかったのではないかと心配になった。午前、午後通して行うのも良いのでは？
・ 大学の評価は、卒業生の能力に大きく依存すると思われる一方、入学者の素質をどう担保するかが、非常になやましい。
・ 今後、大学院の設立を考える上で、大学内外での課題と展望が大局的視点から整理することができました。ありがとうございました。
・ 大学の方針等が良く理解出来て有意義だった。
・ 新任教授ＦＤとなっているが、①この時期が適当なのか疑問（４月なのでは？）②財務・人事、研究の話は、他の教員（教授）にも浸透しているはずだ・・・の前提のもとなのかどうか。
・ 准教授ではあるが長崎大学がおかれている現状がよくわかった。これを参考に、自分のキャリア、方向性を考えたい。
・ 長崎大学に３年以上いれば、どこかで聞くことのできる話がほとんどであった。本日の内容であれば着任して１～２年程度の新任教授ＦＤの方が適切だと思う。

- 大学の実情がわかりました。発展と躍進に向けて頑張ります。トップダウンで来る命令の背後の意味も理解でき、良い研修だったと思います。命令の意図の誤解をなくすためにも従来からいらっしゃる教員に対してもこのような研修が必要かと思います。
- 大変参考になりました。ありがとうございました。
- マネジメント力の向上の視点から多面的で多様な情報をいただき本学の現況に係る理解が深まったことは意義があった。
- 学長は朝食会を行うとよいと思います。(誰でも出られるようにする。)
- 松坂先生のご講演にてモジュール科目の意味・意義を知ることができた。教育・指導方法の変化に我々もリアルタイムに反応していくべきと考える。但し、科目数が多い歯学部では講義時間割が非常に複雑になってきており、後からどんどん加わった科目が各学年のすき間をうめている状況で、しかるべき時期にしかるべき科目を学べるよう変化に対応しやすい時間割に改変すべき時期にきていると考える。
- ①的外れな感想かもしれないが、学長のものの見方、つまり常に advantage と disadvantage に目を配り、disadbantage の克服に目配せしている点に共感をもった。私の専門（アメリカ文学、比較・世界文学、英語教育）では１つのアイデアを宗教のように信じて「副作用」を考えない傾向にあり、私は常々医学的視点（薬の作用と副作用等）に習えと発言してきたが、学長のそうした面でのバランス感覚はさすがだと思った。②裁量制は是非早期に実現して頂きたい。研究・教育の質が格段に上がると思う。

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

- 休憩を入れて欲しかった。
- 内容面では全職位に対して行うべきものが多かった。
- ルールをもった任期制は必要と考えるが、教育に対する評価が低く感じる。研究・診療に関るところが主な評価になってしまうため教員の教育への積極的な取り組みを阻害している。研究を下げるのではなく、教育でも加点すべき。
- 新任の准教授や助教の先生も参加しているようにみえた。広義の「教授」には准教授や助教も入るので、表現が難しいように思う。
- ①４月に着任させて頂いた。おこがましいが、学長の方針(国際化、長崎を基盤としたグローバル人材教育、研究）は、私が出した「長崎大学での教育、研究の抱負」と合致しており、それを確認できた。個人的な考えでしかないが、海外インターンシップ（日本式でなく世界型）ならこれまで行ってきたのでそれも可能だし、教育学部であれば海外の学校での教育実習なら簡単にできるので、それを起爆剤にして、教育学部でも国際化が図れると考えている。②アクティブラーニングの具体的方法は、前任校でかなり活発にやられていることであることを確認した。

・ 2.5 時間続けて行うのは集中力持続の面では、大丈夫ですが、他の業務と調整しながら時間を作らないといけませんので 1.5 時間位が妥当かと思います。

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。
・ 勤務時間、労働環境に関する話題。
・ 最近の学生の日本語コミュニケーション能力の低下が懸念されているところであるが、「伝える」ための日本語をどのように学生に指導すればいいか知りたい。
・ すでに運営を担っている教授の先生方もいるので（委員長など）、１～２年程度の新任の教授と内容を変えるか、対象を絞るかしたらいいように思う。
・ 教務、学生支援、就業力強化、英語力強化、障害者支援など弊大学のかかえる課題について、学外講師をお呼びして他大学の取組みについても紹介してはどうかと思います。
・ 研究費関係
・ 特にありません。ありがとうございました。

（２） 総　括

本ＦＤでは、まず学長によって、本学を取り巻く社会情勢との関連のなかで本学の課題や展望が示された後、教育、研究、財務、人事・認証評価にかかわる課題について、各担当理事による説明がなされた。

参加者のアンケート結果をみると、「満足」、「有益」、「理解が深まった」がいずれも９割強を占めるなど、有意義なＦＤだったと言える。その一方で、アンケート結果からあえて課題を挙げるとすれば、「時間配分」に関することだろうか。例えば、ディスカッションの時間がもう少し確保されてもよかったのかもしれない。

参加者の自由記述回答からみてみると、本ＦＤの開催時期や受講対象者の範囲などについて再考を求めるものが見られた。一方、講演内容に関してだが、教育面では、新規科目の増加に伴う時間割の複雑化とその改変の必要性や、英語教育、障がい者支援など本学が抱える課題について他大学から講師を招聘しての講演会開催、あるいは海外インターンシップを通じた学部教育国際化、学生の日本語コミュニケーション能力向上に向けた指導の必要性などが指摘されている。また、人事・認証評価面では、任期制における教育への評価の低さが教育への積極的な取り組みを阻害しているといった見解や、大学評価が卒業生の能力に依存する一方で入学者の質をいかに確保していくかといった課題が指摘されたり、裁量制の早期実現に向けた要望などがなされたりしている。

総じていえば、各部局で抱えている課題にはそれぞれ特徴があり、これと同時に、各部局の有する可能性や資源には個性があるので、本学が課題を解決し展望を切り開いていくためには、やはり、現場と当局との意思疎通が不可欠であることを改めて感じた。

また、裁量制など労働環境の改善を、教員は、教育と研究の質向上と結びつけて考えている。したがって、こうした現場に横たわる問題意識や打開に向けたアイデアへの対応が、本学の潜在能力を引き出す上でのキーポイントとなっていることを示唆するＦＤであった。

（文責：首藤 明和）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１１月１０日提出）

１．題　目： 平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「アクティブラーニング講座－講義型授業での導入方法－」

２．日　時： 平成 26 年 9 月 12 日（金）　14:00～16:00

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催： 教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
大学教員にとって、アクティブラーニングとは学生にプレゼンテーションをさせたり課題をさせるものという固定観念があるようだが、アクティブラーニングは学生の学習内容が多い講義形式でも非常に有効な授業方法であるといえる。
本講座では、講義形式の授業で使えるアクティブラーニングの方法についてのアイデアを伝授し、実際の授業改善に役立ててもらうことを目標にした。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　大学教育イノベーションセンター　岡田 佳子　准教授
大学教育イノベーションセンター　若菜 啓孝　教授

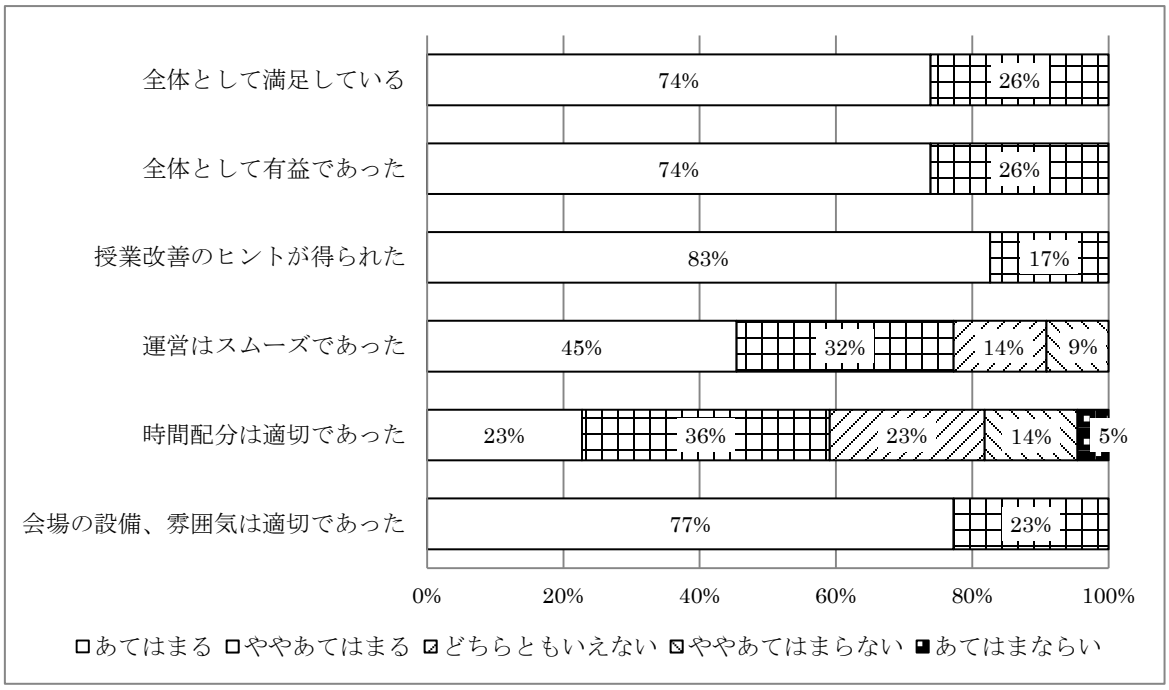
【内容】
①アクティブラーニングとは何か
②講義形式に適したアクティブラーニングの諸方法
③LACS を用いたアクティブラーニング

９．参加者：　２７名（受講証発行対象者：２５名（途中退出者２名除く））
（内訳）

所　　属	人数
多文化社会学部	2
教育学部	3
経済学部	3
医学部医学科　先端医育支援センター	1
医歯薬学総合研究科（医系）	3
医歯薬学総合研究科（保系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	3
医歯薬学総合研究科ハイブリッド医療人養成センター	1
工学研究科	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	4
病院	1
ICT 基盤センター	2
核兵器廃絶研究センター	1
大学教育イノベーションセンター	1
計	27

１０．実施したＦＤの成果等

（１） 参加者からの評価



（回答者：２３名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 参考になりました。すこし時間配分がよくありませんでした。（後半が押してしまいました。）
・ ＬＡＣＳについて、もう少し基本的なところから聞きたかった。
・ アクティブラーニングについての理解が深まった。
・ 授業のヒントになった。ただ、やってみないと負担がどのくらいなのかわからない面もあり、実践できるか不明。
・ いい内容だったと思います。
・ 授業改善のヒントが沢山あり、参加できて良かったと感謝しています。ペアでの学びの聞き合いにより、更に学びが深まりました。
・ 中座しましたが、アクティブラーニングについての意義等が、その実践方法とともによくわかりました。
・ アクティブラーニングの具体的事例を豊富に示して頂き有益でした。
・ アクティブラーニングに様々な手法があることは理解できますが、各々の教育効果（学生のモチベーション、理解度）の違いや、どのような場面でどのような手法が効果的なのか等の説明があれば助かります。
・ ＬＡＣＳを使ってみようと思いました。
・ ＬＡＣＳでのやり方をもっと聞きたかった。
・ 学生への講義では時間オーバーが一番評判が悪かったです。

・ とても興味深い内容でした。少し時間内には消化しきれない部分がありましたが、後日、是非自分で応用（活用）したいと思います。特に後半ですが、パソコン室で実際に説明していただいていることを一緒に試すことができたら尚、理解しやすいと思いました。
・ ぜひ医学部の学部ＦＤとしてやってほしい。(医学部ではアクティブラーニングがなかなか普及しないため)
・ このＦＤをあえて参加型（アクティブラーニング）にする必要はない。
・ 特にありません。ありがとうございました。

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。
・ 時間配分を改善し、質問を受ける時間を確保したい。
・ お二人ですと、時間が気になりました。一つ一つ大切なテーマですので、お一人一プログラムでゆっくりお聴きできると有り難いです。（可能であれば・・・）
・ ＬＡＣＳの活用方法等の説明では、(資料の文字が小さく見にくかったので）手順を示したマニュアルを用意して頂ければ判り易かったと思います。
・ もう少し時間に余裕があれば有難いと思いました。
・ ＮＵ－Ｌｉｂ　Ｇｕｉｄｅｓの話が１６時以降にあることの告知が全くなかった。
・ 昼の真中（時間帯）で行われると、参加しにくく（他キャンパスからは）夕方ぎりぎりがよい。(16：00～18：00)

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。
・ 講義担当者が、もう少しこのようなＦＤで学ぶ機会が多くなればよいと思います。自分の学生時代とあまりに違うので。
・ モジュール事例報告会では、グループディスカッションやディベートの実施に関する説明に片寄っている感じがあります。様々な具体例が学べるように内容を工夫して頂けますと有難いです。
・ ＬＡＣＳの利用例集などができればいいと思います。
・ 実際例集みたいなものを作っては？
・ クリッカーを使った講義。
・ テーマの希望について、全学アンケートをとるのは、可能でしょうか。
・ ここ数年の間で、ベテラン教授の退職が一気に進みます。『目に見えない仕事（特に入試や学外関係機関とのつながりなど)』を学ぶ機会をＦＤ・ＳＤで若手に与えていただきたいです。ベテラン教授から学びたいのですが、残された時間が少なく、あせっています。

（2） 総　括

アクティブラーニングを講義形式にも活用できるというテーマでの初めてのFDなので，参加者の関心が高かった。アクティブラーニングの基礎，参加者の体験的参加，長崎大学の現状，アクティブラーニング導入のポイント，LACSの機能紹介等について説明戴き，今後の講義の改善に役立つものであった。特に，予習としての文献購買，レポート・ライティング等は今までアクティブラーニングとして認識されていなかったこと等の現状説明や所定の回数講義を行った後，残りの回数でアクティブラーニングを行うと定期試験への効果が大きいなどの実践的な解説など非常に有意義なFDであった。

参加者からの評価は，満足度，有益度および「授業改善のヒントが得られた」において「あてはまる」がそれぞれ74，74および83%と非常に高かった。

一方，アンケートでも「アクティブラーニングについての理解が深まった。」，「いい内容だったと思います。」，「授業改善のヒントが沢山あり、参加できて良かったと感謝しています。ペアでの学びの聞き合いにより、更に学びが深まりました。」，「アクティブラーニングの具体的事例を豊富に示して頂き有益でした。」といった講演内容に関しての良い反応が目立った。

他方，「授業のヒントになった。ただ、やってみないと負担がどのくらいなのかわからない面もあり、実践できるか不明。」，「アクティブラーニングに様々な手法があることは理解できますが、各々の教育効果（学生のモチベーション、理解度）の違いや、どのような場面でどのような手法が効果的なのか等の説明があれば助かります。」，「意義には納得できたが、導入にはかなり時間が必要だと実感した。」等の内容の直ぐの実践には否定的な反応もあった。この点に関しては追加のFDの要望と受け止めて，今後の開設を検討戴きたい。

運営に関しては，「時間配分は適切であった」に関して約40%が「あてはまらない」および「ややあてはまらない」と回答している。意見においても，「参考になりました。すこし時間配分がよくありませんでした。（後半が押してしまいました。）」，「学生への講義では時間オーバーが一番評判が悪かったです。」，「とても興味深い内容でした。少し時間内には消化しきれない部分がありましたが、後日、是非自分で応用（活用）したいと思います。特に後半ですが、パソコン室で実際に説明していただいていることを一緒に試すことができたら尚、理解しやすいと思いました。」，「時間配分を改善し、質問を受ける時間を確保したい。」，「お二人ですと、時間が気になりました。一つ一つ大切なテーマですので、お一人一プログラムでゆっくりお聴きできると有り難いです。（可能であれば・・・）」，「もう少し時間に余裕があれば有難いと思いました。」，「ＮＵ－Ｌｉｂ　Ｇｕｉｄｅｓの話が１６時以降にあることの告知が全くなかった。」といった多くの要望が寄せられた。

今回は，時間配分及び内容からみて，2つのFDに分ける方が適当であったようである。また，説明項目の事前通知にも課題が残った。

当該FDにおいては時間設定の甘さが目立つので,今後,予め講演内容の精査を行い,時間内に必ず終わるように設定戴きたい。

（文責:黒川　不二雄）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１１月１０日提出）

１．題　目： 平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「モジュール・フォーラム ーモジュールⅡ前期科目の総括ー」

２．日　時： 平成 26 年 9 月 22 日（月）　16:00～18:00

３．場　所： 第 2 会議室（事務局別棟 3 階）

４．主　催： 教務委員会
企画・実施： 評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象： 全教職員（非常勤含む）

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
［　○　］(1)　教員の教育活動に関するもの
［　○　］(2)　カリキュラムの改善に関するもの
［　　］(3)　教育の組織的改善に関するもの
［　　］(4)　入学者選抜方法の改善に関するもの
［　　］(5)　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
このプログラムでは、モジュールⅡの科目担当者への総括アンケートの結果をもとに、各モジュールでの工夫点と課題を共有し、参加者と今後の改善方向について率直な意見交換を行った。

８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　松坂 誠應　理事（教学担当）
大学教育イノベーションセンター　岡田 佳子　准教授

【内容】
① モジュールⅡ前期科目の総括アンケートの結果報告と意見交換
② 制度面・実践面での改善方向の検討

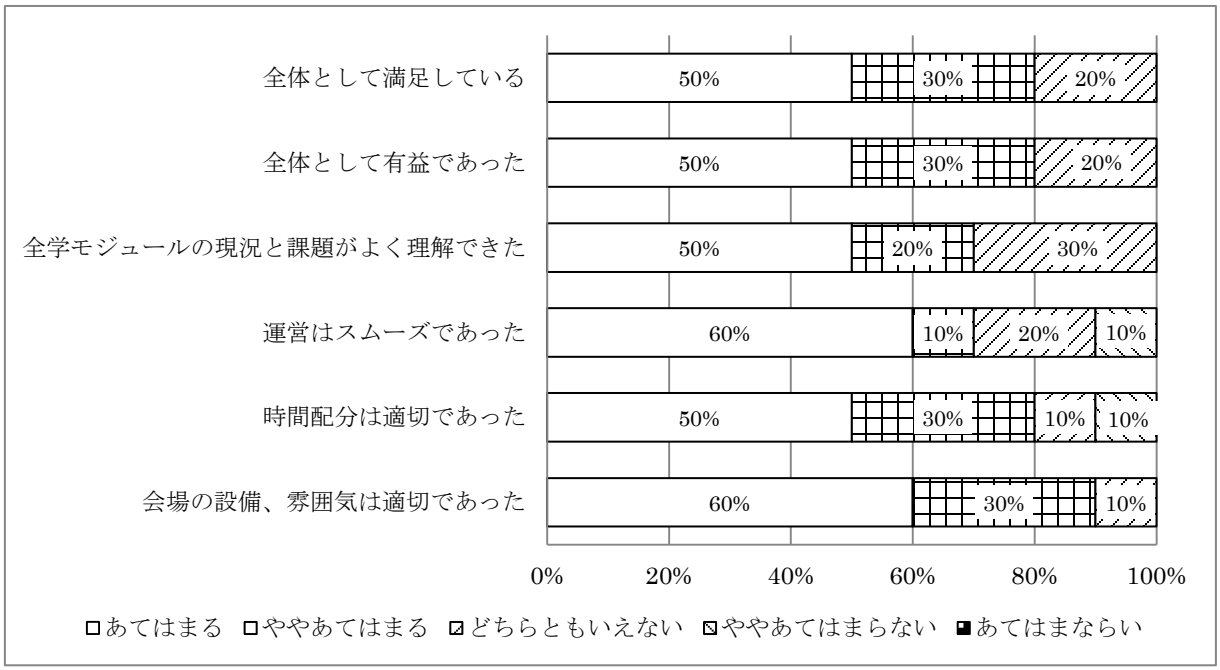
９．参加者：　１１名（受講証発行対象者：１１名）

（内訳）

所　　属	人数
教育学部	1
経済学部	3
医歯薬学総合研究科（医系）	1
医歯薬学総合研究科（歯系）	1
医歯薬学総合研究科ハイブリッド医療人養成センター	1
水産・環境科学総合研究科（環境）	1
水産・環境科学総合研究科（水産）	1
ICT 基盤センター	1
大学教育イノベーションセンター	1
計	11

１０．実施したＦＤの成果等

（１）　参加者からの評価



（回答者：１０名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 「現時点での課題(モジュールⅡ科目責任者)」の資料はとても有益で参考になった。学部の教務委員会でも情報を共有したい。
・ LACS を使ってフォーラムをしたらよい。
・ 長い。
・ 各学部に温度差があると感じた。
・ The importance of before after testing of the generic skills mentioned is indeed critical.

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

・ 目的をもっとふみ込んではっきりさせるべき。
・ 授業参観は Youtube のようなものでアップしたらよい。

（2） 総　括

モジュールⅡ科目責任者へのアンケート調査を行い、対象者 73 人中 30 人から回答を得た。アンケート調査結果に基づいて、岡田准教授（大学教育イノベーションセンター）より報告を兼ねた発表があった。

発表の概要

・授業外課題については約 2/3 がまとまった回数課しており、好印象を得たが、残り 1/3 の担当者についても改善が望まれる。
・受講生の活動については、授業に参加することに対して不熱心であるという回答が昨年度より増加していた。
・アクティブラーニングがうまく行ったという回答は前年度より増加しており、教員側も学生側もこの形式の授業に少しずつ慣れてきているのかもしれない。
・クリッカーの使用については評価が分かれており、数%の教員しか積極的に使用しておらず、普及していない。
・授業公開については、まだほとんど参加者もいない状況であるが、実際に参加者がいて、かつ、コメントを得ることができた場合には、当該授業を行った教員は非常に有用な情報を得ているようである。
・授業経費については、使用しなかった人が昨年度に対して激増している。今後の給付方法をどのようにするか等議論が必要である。
・その他、回答者から現時点での課題がいくつもあげられており、それらが資料で紹介された。

今回のFD・SDワークショップは2人の演者のうち1人がキャンセルとなったため、演者発表後自由討論にかなりの時間が割かれた。おおよそ下記のような議論があった。

・モジュールIIは、モジュールIの後に行われる教育であるにもかかわらず、アクティブラーニングの基本的なところに問題があるとする回答も多いようで、アクティブラーニング定着の難しさが表れている。
・学生に足りない部分を調査し、それを補うような教育が真の教養教育ではないか。他大学にはこのような観点からの取組もある。
・教養教育の方針に関しては、学部で議論するような場もなく、トップダウンでいきなり命じられているような印象が強いとの意見が出され、それに対して松坂理事より、そのようなことはないこと、必要に応じていつでも説明や議論のために赴くことが可能であるとの回答があった。
・クリッカーを専用機器ではなく、スマホで代替できるシステムを現在ICT基盤センターで開発中であるとの紹介野村ICT基盤センター長からなされたが、クリッカーの使用は、自ら意見を述べたり上手に発表するスキルを身につけると行った教育ではむしろ使用を控えるべきではないかとの意見が出された。また、クリッカーはあくまでも授業を行う上で有用なツールとして活用すればよく、目的により使い分ければよいとの意見が出た。
・アンケートの回答率が低く、かつ学生の意見がないので、不十分な調査であるとの指摘があった。

その他様々な議論があり、予定された2時間が経過し、終了となった。参加者が少なかったのが残念であったが、多方面から様々な意見が出て、有益な議論がなされたという印象を持った。

（文責：池田 通）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線2077

第１０８回長崎大学ＦＤ実施報告書（平成２６年１１月１０日提出）

１．題　目：平成 26 年度ＦＤ・ＳＤサマーワークショップ
「学生とともに進める教育改善」

２．日　時：平成 26 年 9 月 25 日（木）　10:00～12:30

３．場　所：第 5 会議室（教育学部 2 階）

４．主　催：教務委員会
企画・実施：評価・FD 教育改善専門部会

５．対　象：全教職員（非常勤含む）・学生

６．長崎大学ＦＤに関する指針第二項への該当について【複数選択可】
（該当するものに○を記入すること）
[　○　]（1）　教員の教育活動に関するもの
[　　]（2）　カリキュラムの改善に関するもの
[　○　]（3）　教育の組織的改善に関するもの
[　　]（4）　入学者選抜方法の改善に関するもの
[　　]（5）　その他教育改善及び入学者選抜方法の改善に関するもの

７．今回のＦＤの趣旨・意義
本学では、平成 22 年 6 月より各部局から 2 名～3 名の学生が推薦され、「学生による教育改善のための協議会」が活動している。今年度の本プログラムでは、「大学で身に付けるべきものとは何か？」をテーマとして設定し、教職員と学生との間で議論を行い、長崎大学の教育改善に向けて改善案を提示することを目指した。

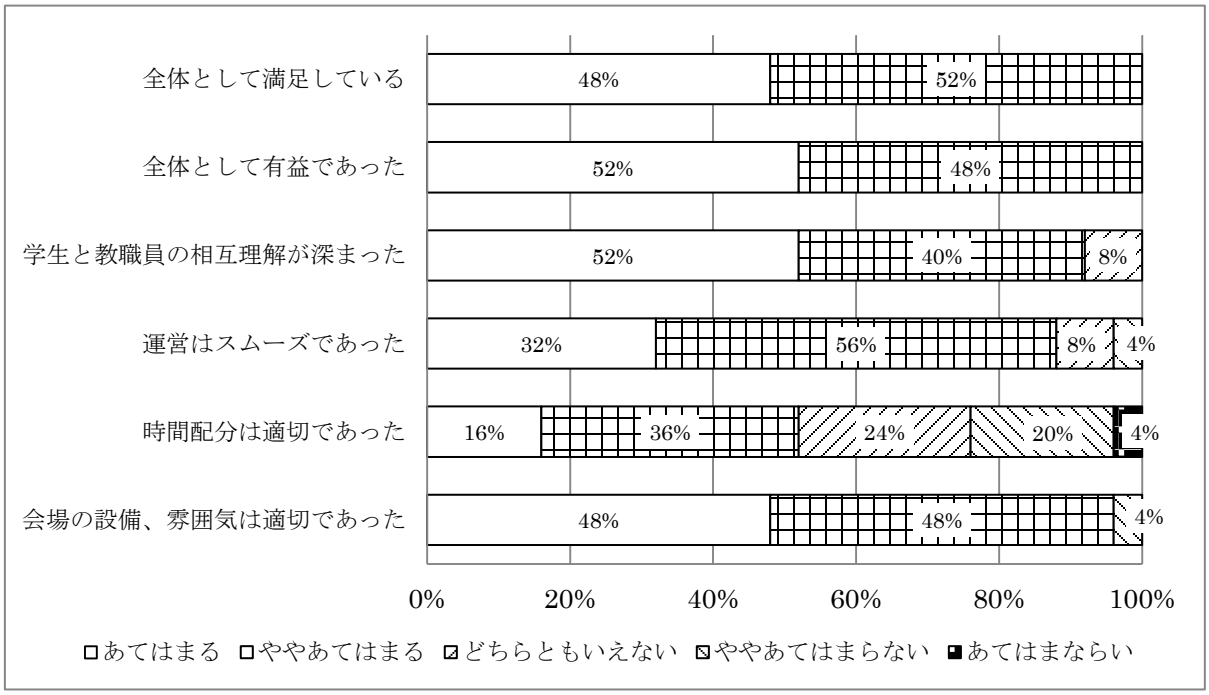
８．プログラム構成［題目・担当講師］
【講師】　「学生による教育改善のための協議会」メンバー
評価・FD 教育改善専門部会委員

【内容】
① 大学で身につけるべきものとは何か（学生による教育改善のための協議会からの話題提供）
② 参加者との自由な意見交換
③ まとめ

９．参加者：　３４名（受講証発行対象者：１７名（学生，途中退出者３名除く））
（内訳）

所　　属	人数
教育学部	2
経済学部	1
医歯薬学総合研究科(保系)	3
工学研究科	1
水産･環境科学総合研究科(環境)	1
大学教育イノベーションセンター	1
言語教育研究センター	2
学生支援部	3
文教地区事務部	6
学生	14
計	34

１０．実施したＦＤの成果等
（１）　参加者からの評価



（回答者：２５名）

● 今回参加なさって、何か感想や意見がありましたら、ぜひ率直にご記入下さい。

・ 学生の参加がもう少し多くても良かったかと思います。(開催時期など考慮すべき点があるのでは・・・)
今回、はじめての参加で楽しく過ごせたと感じています。(教育職員)
・ 「学ぶ意義」など少し難しいテーマ設定だったと思います。今回はアウトロー(?)的学生の意見が興味深かったです。(教育職員)
・ 年々、学生の積極性が向上しているように思います。今回のテーマで「大学の意義」については他の項目より学生から多くの意見が出ていましたので、大学教育の意義や夢を語り合い、そのためには何をすべきか(学生教員も) 話し合ってはどうでしょうか。(教育職員)
・ このような場を多く作ったら良い。(教育職員)
・ 目的意識を持って最初の一歩を踏み出した協議会が少しずつでも授業改善とつながることを期待しています。(事務職員)
・ 学生さんのフランクな意見が聞けてよかったと思います。学生が積極的であり、教員も同じ目線で意見を出し合う姿が誇らしく思えました。(事務職員)
・ 時間が足りなく、まとめをする時間が足りなかった。もう少し話し合いをする時間が欲しかった。(事務職員)
・ 水産学部の学生が多いなぁ・・と。(事務職員)
・ テーマに対して検討する時間が短く、グループとしてうまく意見をまとめることができなかったため、もう少し時間が欲しかった。(事務職員)
・ 学生の参加も多く、活発な意見交換ができてよかった。このような機会は継続して、設けた方がよい。(事務職員)
・ 久しぶりに自分の意見が言えました。(学生)
・ 時間が短く感じた。議論がヒートアップしたからかも・・・。(学生)
・ 先生方は優しすぎると思った。生徒の意識が低すぎる。(学生)
・ 厳しい意見がありがたかった。(学生)
・ もう少し議題を絞った方が意見を出して、まとめやすくなり、時間を効率的に使えるような気がしました。(学生)
・ ディスカッションの時間が少し短く感じた。一般の学生が参加する際に議題を事前にもらえると助かった。(学生)
・ 初めて教職員の方とお話できて、いろいろきけてよかったです。(学生)
・ 学生と教職員・事務員の視点のちがいを知ることができました。(学生)
・ 全体として有意義な時間になりました。自分の意見も言えたので良かったです。(学生)

● 内容面・運営面のいずれでも、何か改善を要する点にお気づきでしたらご記入下さい。

- グループに分かれて議論したテーマが 1「大学の意義（理想）2「大学教育への趣味・感心（現実）3「大学生活への満足度（経験）」の 3 つであったが、この 3 者のつながり（概念上の関連性）が幾らか希薄で無理に話を結びつけ、発表のまとまりを見い出しにくかった。テーマの関連性を考えて設定することが重要であると思いました。（教員職員）
- 発表の中にもありましたが、周知方法の工夫がいるように思います。（学生活動として）（教員職員）
- グループセッションにて、グループ内でそれぞれの意見を発表する時間がとれなかったことが心残りです。（事務職員）
- 1 グループ 5～6 人の編成であったが 4 人ぐらいだったら時間的によかったかもしれません。（事務職員）
- 内容と時間配分をもう少し考えていただいた方がよいか思いました。（事務職員）
- 学部のかたよりは無い方が大学全体の意見が出て良いように思いました。（事務職員）
- タブレット等を用いグループの意見をまとめると、スクリーンで発表できて見やすいかも知れない。またデータでまとめると、各グループの意見を参加者以外の方にも報告することができ、そこからさらに発展した利用が考えられる。（事務職員）
- テーマが広すぎたので、もう少し絞り込んだ方がよい。（まとめる時に時間がかかりすぎる。）（事務職員）
- 前年度のまとめをしよう。（学生）
- こういった機会を学部毎でも設けるべき。（学生）
- 学生が少ないと思う。（学生）
- 適度に刺激のある意見を求めるためには、有志の学生メンバーもつのるべきではないでしょうか。ご検討お願いします。（学生）

● 今後、FD・SD のテーマや実施方法などに関して何かご希望がありましたら、ご記入下さい。

- 最近良く耳にする「反転授業」について知りたいです。（教育職員）
- テーマが大きかったため、具体的な改善方法が出なかったため、もっとしぼった方が良いような気がしました。（事務職員）
- 各職員と学生が一緒に行う取り組みは、今後も行ってほしい。普段はあまり意見交換等を行う機会がないため、こういった機会があるとよい。（事務職員）
- 今回のテーマが少しわかりにくかった。実施の方法は good（学生）
- 教員が考える楽しい授業、学生が考える楽しい授業、教員が支援したくなる授業。（学生）
- モジュールについて、昨年の調査も踏まえてもうすこし深めてもいいような気はします。（学生）
- 存在自体全く知らなかったので、もうちょっと公にしてもよいのではないでしょうか。（学生）

（２） 総　括

今回のワークショップは全国大会（学生 FD サミット）報告、昨年度の活動報告、今年度の話題提供、グループワークと盛りだくさんであった。学生 FD サミットに参加した学生からは他大学の活動を見ることで刺激を受け、これからの長崎大学での活動に多くのヒントを得たことが報告された。

学生協議会が教務委員会の下部組織として位置づけられてから、年々学生の参加者が増加して活動も活発になっており、今回は協議会メンバーだけでなく、メンバーから誘われて（？）参加している学生もいたようで、グループワークではいつもよりさらに学生の率直な意見が聞かれた。

大学教育の在り方に少しでも学生の声を反映していこうと思うならばこのような場での教員、事務職員との意見交換にどんどん参加してほしい。何も言わなければ何も変わらない、自分たちの声で何かが変わることを学生には少しでも体感してほしい。

（文責：宮原 春美）

１１．実施代表者の連絡先

教務委員会委員長　松坂 誠應
e-mail：nobuou@nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2003

１２．申請者の連絡先

学生支援部教育支援課教養教育班
　主査　入口 忠義
e-mail：fd@ml.nagasaki-u.ac.jp
電　話：内線 2077